

施策番号	449	施策名	道路網の整備	令和3年度主管課名	建設課
総合計画体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和3年度課長名	岩佐 誠己
	関係課名			シート作成者	瀬島 豊

1. 施策の対象と意図の指標

①施策の対象(誰、何が対象か)		③対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度
ア 町道	→	ア	道路延長(町道)	km	見込値			460.6	460.6	460.6
						実績値	460.0	460.5	460.7	
イ 町内の国県道	→	イ	道路延長(国県道)	km	見込値			164.8	164.8	164.8
						実績値	164.8	164.8	164.8	
ウ	→	ウ			見込値					
						実績値				
②施策の意図(対象をどうしたいのか)		④成果指標(意図の達成度)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度
ア 快適で安全な通行ができる	→	ア	町道が安全・快適に通行できると感じている町民の割合	%	目標値	59.8	60.0	61.5	61.6	62.0
					実績値	61.4	60.7	62.6		
					達成率	102.7%	101.2%	101.8%	101.6%	101.0%
イ	→	イ	道路改良率	%	目標値	53.2	53.5	52.6	52.7	53.0
					実績値	52.4	52.4	52.5		
					達成率	98.5%	97.9%	99.8%	99.6%	99.1%
ウ	→	ウ	道路舗装率	%	目標値	87.8	87.8	86.7	86.7	87.0
					実績値	86.6	86.6	86.6		
					達成率	98.6%	98.6%	99.9%	99.9%	99.5%
エ	→	エ			目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤成果指標設定の考え方	アは直接設問により有効と考えた。 イ・ウは向上させることにより快適で安全な通行ができる。			⑥成果指標の把握方法と算定式等	ア 町民アンケート(対象者1,000人中446人が回答) イ・ウ 道路統計資料					

2. 施策の役割分担

	①住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	②行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	道路などの公共施設を自らの財産と受け止め、適切に利用するとともに維持管理に協力する。 道路改良などでの用地提供について、協力する。	優先順位等の判断により町道の整備を推進するとともに、適切な維持管理を行う。 交通安全施設の整備を進めるとともに自然環境や景観に配慮した整備を促進する。 国・県道の整備促進のため、関係団体に対して整備を要望する。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
3年度 の 評価結果	①施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?) 町民アンケートでの道路が快適・安全に通行出来ると感じている割合は目標値に対し101.8%と達成している。 また、道路改良率及び道路舗装率に関しても99.8%及び99.9%と概ね目標を達成している。 要因としては、地元要望に対する対応や道路改良工事を実施したことによるものと思われる。 <input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る
	②成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?) 道路改良率は52.5%と前年比較して0.1ポイント向上している。また、道路舗装率は86.6%と前年比較して増減はない。 町民アンケートでは、道路が快適・安全に通行できると感じている割合が前年比較して1.9ポイント向上している。 要因としては、地元要望に対して危険箇所等の早急な対応や計画的に道路改良工事を行っている事によるものと思われる。 <input type="checkbox"/> 向上した <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
	③他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) 岡山県内の市町村の整備水準と比較すると、道路改良率で6.6ポイント(平均45.9%)上回っている。 また、道路舗装率は5.4ポイント(平均81.2%)上回っている。 要因としては、道路整備を計画的かつ着実に実施しているためと思われる。 <input checked="" type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など 本格的な道路整備がはじまって概ね50年を経て、インフラの高齢化という困難な課題が急速に顕在化し、平成25年度に、国が戦略的な維持管理・更新等の取り組みとして、インフラ長寿命化基本計画が策定された。この計画に基づき、本町でも長寿命化計画を策定し、持続可能なインフラメンテナンスや防災・減災など事後保全から計画的な予防保全にシフトしている。 住民からは、道路拡幅・通学路対策や路肩修繕・舗装補修など安全性を求める要望が大半を占めている。	
3. 施策の振り返りと総括(3年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?) ①施策の成果向上につながった主な事務事業 道路維持補修事業費 ②施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業 土木総務経常管理費(負担金:道路事業協議会等負担金) ③施策全体の振り返りと総括	
生活道路の幅員狭小区間の改良、歩道設置により通学路の安全確保を計画的に行っている。 適切な道路修繕を行っていくため、道路の安全パトロールを拡充し、危険箇所の早期発見・早期改修に努めた。 地域と連携し、道路の草刈りや側溝清掃など地区による道路愛護活動を行い、生活道路の安全確保に努めた。 国・県道は、重要なインフラであり、災害に強い道路網を構築するため、国・県に対して、整備促進などに対する要望を積極的に行った。	
4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?) ①今後施策の成果向上につながる主な事務事業 道路維持補修事業費 ②施策全体の今後の課題と改革改善の方向	
今後、高度経済成長期に構築した道路・橋梁の老朽化の進行によって、計画的な修繕対応が必要になるが、工事に伴う人件費・原材料・諸経費の高騰化が進んでおり、工事コストの上昇が懸念される。また、高齢化が進み、地域での維持管理活動が困難になっていくことが考えられ、限られた財源の中で、緊急性、必要性などを踏まえながら、コスト削減等の様々な工夫・取り組みを行うとともに道路の安全パトロールについても、さらに拡充し、早期発見、早期改修に努める。	